

ミクロネシアの旗

第5部 核の時代

2005.12.24

札幌たのしい授業・研究サークル用レポート

仮説実験授業研究会・北海道・丸山秀一

[C]Maruyama Shuichi

ミクロネシアは、信託統治領となっても、その実態は軍事基地であり軍政の継続でした。そして、1954年の水爆実験は、島民や福竜丸に放射線被害をもたらしました。

【問題】

ビキニ水爆実験による死の灰は、ほぼマーシャル諸島全域に降り注ぎました。では、米国は住民を避難させたでしょうか。

予想

- ア 汚染地域の住民全員を避難させた
- イ 大半の地域の住民を避難させた
- ウ 一部地域の住民だけを避難させた
- エ 避難は行われなかった



■物理的に無理

現地の水爆実験作戦司令部は、ロンゲラップとウトリックの住民の避難を決定しました。これ以外の島の住民を避難させなかったのは「物理的に無理」と判断したからです。被爆放射線量 20 ラドのアイルックは、「原子雲の中で放射線調査を行う航空機調査員の許容被爆線量以下」ということで避難を見送られました。

実験の二日後に、まずロンゲラップで避難が始まりました。住民には避難の理由は知らされず、「すぐに島を出ないと死んでしまうぞ」と避難を強制しました。島のものはすべて汚染されているため、携行品の持ち出しは一切許可されず、住民の服もすべて軍服に着替えさせられました。女性の住民にとって、男性にシャワーを付き添われたり、男物の下着やズボンをはかされたりすることは、文化に反する屈辱的なことでした。

【問題】

3月7日、作戦司令部は、原子力委員会に医療チームの派遣を要請し、翌日には医療チームが到着し、診察を開始しました。しかし、この医療チームは診察するだけで治療を行いませんでした。それは、どうしてだったと思いますか。

予想

- ア 放射線障害に対する知識がなかったから
- イ 医薬品、医療器具や設備がなかったから
- ウ 治療が目的ではなかったから
- エ そのほか

■プロジェクト 4・1

実際に派遣されたのは、前年の 11 月に原子力委員会と国防総省、空軍特殊兵器プロジェクト、海軍医療研究所、海軍放射線防護研究所の合同で設立された「プロジェクト 4・1」という生物医学チームでした。

「医療チーム」は、被爆住民を治療しない理由を「継続的な医学的観察が行われているので問題がおきても対応可能である。抗生物質などの投与は、治療に対する適応性を曖昧にさせる。治療の正確な知識がない」としていましたが、「プロジェクト 4・1」の目的は「放射線降下物により被爆した人間の反応研究」であり、治療が目的ではなかったのです。

かくして、クワジェレンの米軍基地に収容された被爆住民は、放射線でやけどした皮膚などの治療はされず、一日二回全裸になって海水で水浴びをさせられ、身体の状態を調べられるだけでした。ロンゲラップ住民が受けた放射線量は「半数致死量」とされる放射線量の半分ほどでした。

【問題】

米国はこの水爆実験と住民が被爆したについて公表していたと思いますか。

予想

- ア 極秘にしていた
- イ 被爆の事実以外は公表していた
- ウ すべて公表していた

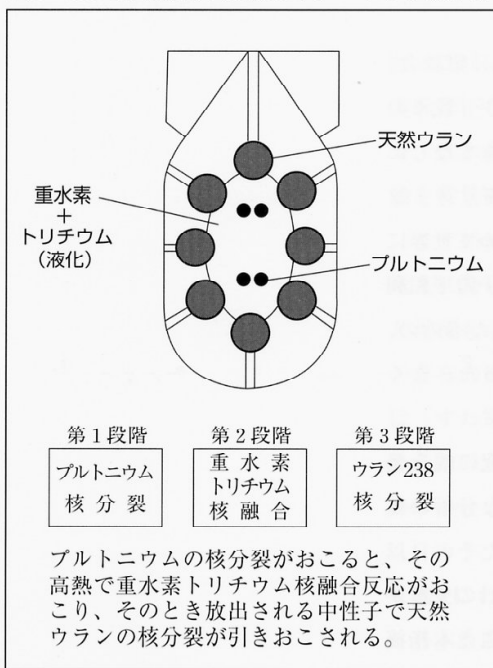
■暴露

この水爆は「水爆の周りを劣化ウランで覆って、そのウランにも核分裂を起こさせる」という爆発力と放射線汚染が巨大な新しいタイプの水爆で、米国にとって極秘のものでした。

しかし、3月11日、この実験のことは、ある米兵が家族に宛てて書いた手紙の内容より、新聞社によって暴露されました。その内容は「核実験の様子と住民の被爆」を伝えるものでした。

原子力委員会は、報道後すぐに「一連の核実験により、28人の米国人と236人の住民が、用心のためクエゼリン島に移された。予期せずに若干量の放射線を浴びた人たちであるが、やけどは一人もいず、全員元気

図1 3F型水素爆弾(概念図(「マイク」場合))



- ① 原子核起爆装置 (プルトニウム、もしくはウラン・235からなり、ふつうの爆薬でつつんである)
- ② 熱核装置 (重水素化リチウムがはいっている)
- ③ 電気式点火装置
- ④ 重水素化リチウムが融合反応 (爆発) をおこすと、それからでる高速中性子で爆発する天然ウラン、ウラン・238の外殻

ゲ・イ・ボクロフスキー著、林克也・太田多耕訳
『現代戦と科学技術』(新日本出版社) 76ページ

だと伝えられる。実験の終了を待って、住民はそれぞれの島に帰ることになる」と発表しました。

しかし、大統領には「実験禁止」を求める手紙が、一日 100 通以上も寄せられることになり、FBI は差出人を共産主義者として調査を開始しました。

【問題】

3 月 16 日、米国は、日本での報道により、福竜丸が被爆していたことを知りました。福竜丸からは、強度の放射線が検出され、船員たちは原爆症と診断されて入院、積んでいたマグロはすべて破棄され、日本国民に「放射能魚パニック」を引き起こしました。

原爆傷害調査委員会と米原子力委員会は、福竜丸被爆について、日本で調査し、その中間報告が米両院合同原子力委員会でなされました。では、その内容は、どんなものだったと思いますか。

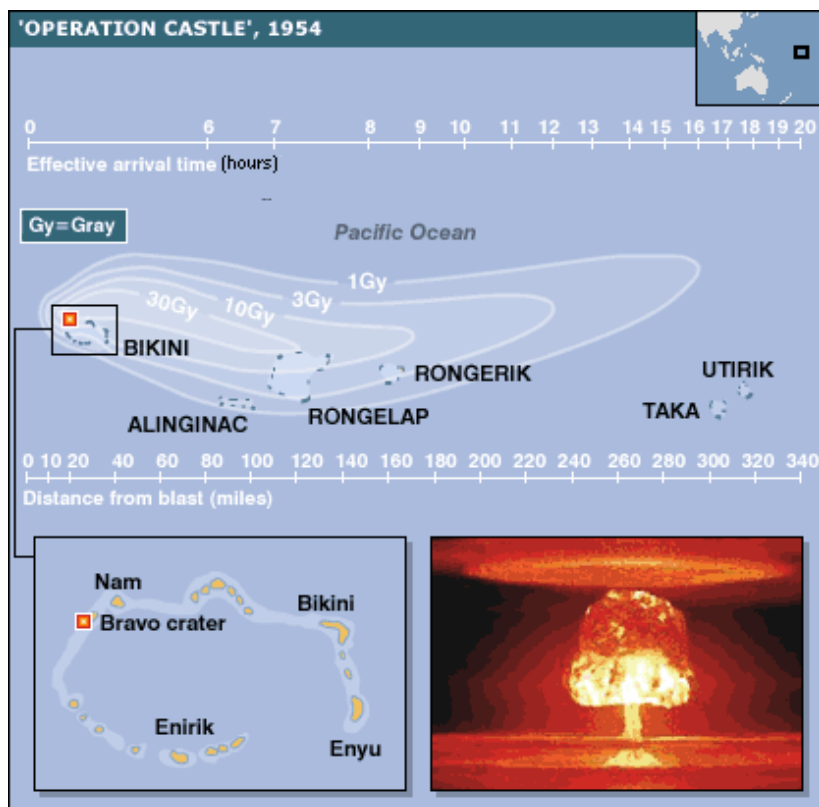
予想

- ア 核実験中止と謝罪・賠償を検討すべき
- イ 被害は誇張されており、実際は軽度であった
- ウ 福竜丸は意図的に被爆した
- エ そのほか

■被爆の理由

福竜丸の被爆が知らされたとき、ダレス国務長官は「不幸な事件である」とし、両院合同原子力委員会委員長も「もし不注意、過失、警告の無視でないのであれば、米政府は補償すべき」と述べていました。しかし、調査団の報告は「漁民が受けた負傷は軽度で後遺症を残すことはない。最初の報告は不幸にして事実をずっと大げさに誇張したものだ」となっていました。

報告を受けて委員長は「漁夫たちが故意に危険区域に入って、実験をスパイしていたこともあり得る」として、CIA に調査を依



頼しました。

また、米国が最も関心をもっていたのは、福竜丸を汚染した死の灰のことでした。死の灰を分析すれば、水爆の正体が分かってしまうからです。そこで米国は、極秘に日本政府に「福竜丸を在日米軍に渡すか、水中に沈めて欲しい」「乗組員を米国内の病院に入院させて欲しい」と要請し、また日本の医師団からの「治療のため、使われていた核種を教えて欲しい」との問い合わせにも答えませんでした。しかし、その後、日本の科学者は死の灰を分析し、水爆の構造を明らかにしました。

日本の治療団は、米国医学会と市民に向けた「患者は重体なのに、新聞報道は事実を伝えていない。助言を求めた米医学者からは返答もない」とする真相公開状を出しました。

【問題】

では、日本政府はどのように対応したと思いますか。

予想

- ア 謝罪と賠償を要求
- イ 事実の徹底究明を要求
- ウ 特に何もせず
- エ 米国に積極的に協力

■核パニック

日本政府は「日米共同で調査する。日米親善を考慮して、賠償請求という形は取らない」との方針を閣議決定しました。岡崎外相は、「公海上に禁止区域を設定したことは国際法違反とは言えない。米核実験に自由主義国家として日本が協力するのは当然。核実験は米国のみならず、我々も一員である自由諸国の安全保障に必要」と発言しました。

国会は「原子力と核実験の国際管理に関する決議」を採択しましたが、これも福竜丸事件とは全く関係のないもので、外相は「米に対し核実験禁止は呼びかけない。次元の違う問題であり、米国だけにそのような要請をすることはできない」としていたのです。

当時政府は、「原子力の平和利用」として原子炉予算を国会に提出しており、米国から核技術の導入を考えていましたから、余計に、米国を非難できなかったのです。

さらに、政府は公安警察を通して、福竜丸乗組員の思想調査を行いました。このことを政府は否定しましたが、CIA の報告書には、日本政府の協力が明記されていました。結局 CIA は「スパイ行為の証拠を挙げることは失敗したが、不正行為の可能性がなくなったわけではない。ただ、日本政府は、なんら隠し立てをしていないようだ」と結論しました。

しかし、福竜丸事件は、日本国内をパニック状態にしました。福竜丸以外の漁船からも汚染された魚が次々と見つかり、厚生省は 100cpm（1 分間に 100 崩壊）以上の放射能を持つ魚をすべて廃棄処分としました。魚は全く売れなくなり、漁業関係者や流通業者は大いに困りました。

唯一の被爆国である国民は「非戦争時にも被爆した」というこ

とに強いショックを受けたのです。

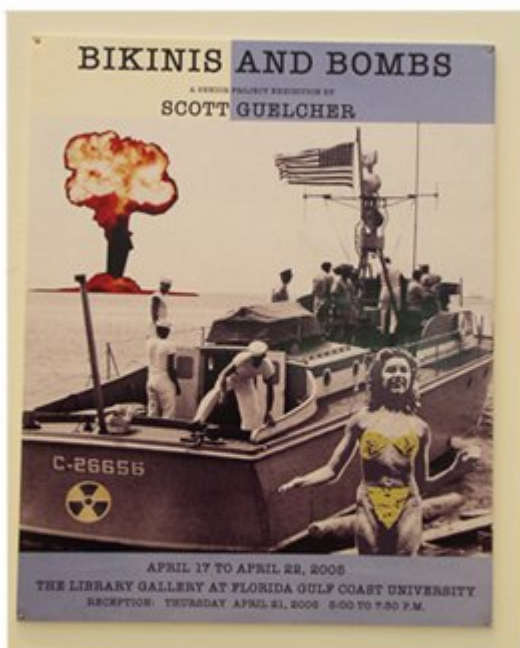
【問題】

米国民は水爆の威力に驚き，その脅威に恐怖しました。世論調査では，39%が「水爆攻撃の可能性は全くない」，57%が「水爆攻撃の可能性がかなりある」としていました。

では，この結果を米国の報道各社はどうコメントして伝えたと思いますか。

予想

- ア 核よりも平和
- イ 核実験停止が急務
- ウ 核実験の推進
- エ そのほか



■核爆弾は危険ではない

報道各紙の論調は「共産主義のスパイでない者がどうして水爆実験に反対するのかわからない」「文明に対する危機は水爆ではなく、全体主義国家にある」というものでした。

ビキニから帰国した原子力委員会のストローズ委員長は「水爆実験は成功だった。236 人の住民が放射性降下物の降る区域にいたが、私の目には元気で幸福そうに見えた。だから、福竜丸は危険区域にいたに違いない。放射性降下物は海流に乗って 8 マイルも流されれば、無害になり、500 マイルも行けば完全に検出されなくなるであろう。福竜丸被害については、日本政府と在日大使館が必要と認めた場合は、当面必要な手段として財政的援助を行う用意がある」と述べました。

チャーチル英首相も「英国には米国の核実験中止を求める権限はなく、それは賢明な措置でもない。米国の水爆は第三次世界大戦に対する最大の防御である」と述べました。

しかし、カナダの閣僚は「すべての政府は国連に対し〈核兵器使用禁止〉を要請すべし」と発言し、インドのネール首相も福竜丸事件に同情を表明し、米ソに核実験停止協定を呼びかけました。ローマ法王も「核実験の危険性」を訴えました。

【問題】

被爆事件で米国は、核実験を停止したと思いますか。

予想

ア 停止した イ 延期した ウ 続行した

■終わらない核実験

米国は3月19日に危険区域をそれまでの8倍に広げることを通告し、27日にビキニで水爆実験を行いました。米国は、ビキニでの死の灰がハワイにも到達している($2\mu\text{Sv/h}$ 通常の100倍)のを知っていました。

水爆実験の結果として北太平洋全域に広がる放射能汚染は、米国としてもどうしようもなく、両院合同原子力委員会は大統領に「すでに所有している以上の大きい兵器の所有や実験をしないと声明するように求める」ことを決定しました。そしてアイゼンハワーは「これ以上爆発力の大きな水爆は作らない。原水爆は、それ自体は危険ではない。潜在的侵略者がこれを持ち、自由世界に対して使う恐れがある故に危険なのである」と演説しました。

終わらない核実験に対して、マーシャル諸島住民代表のハイネは、国連信託統治委員会に「核実験停止を求める請願書」を提出しました。彼は「誤解して欲しくないのだが、米国の統治は、今までの外国統治の中で一番望ましいものだ。しかし、日本軍の強制収容から返還された島は、わずかひとつに過ぎない。〈死の灰が降った後に水を飲んではいけない〉と知っていたら、危険は回避

できたはずだ」と述べました。



Castle Bravo

【問題】

米国は、水爆実験前に危険区域を 8 倍に拡大して、今度は前もって住民を避難させたと思いますか。

予想

- ア 危険区域内の全住民を避難させた
- イ 危険区域外の住民も避難させた
- ウ 住民の避難はなかった

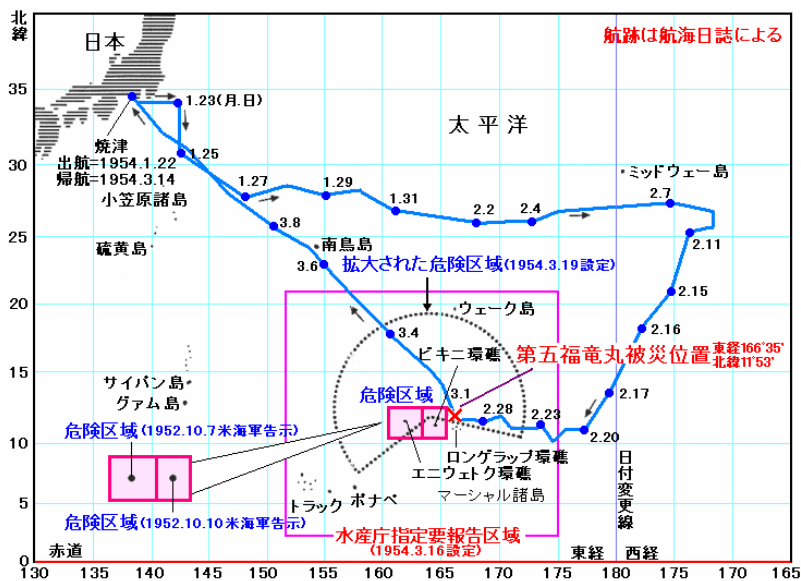


図2 第五福竜丸の航海と被災位置

【出典】(財)第五福竜丸平和協議会:第五福竜丸ものがたり、第五福竜丸展示館、(2000年1月22日)

■危険区域

危険区域が 8 倍に拡大されても、住民の避難はありませんでした。というのも、拡大された危険区域は、図のように島にかからないようになっていたからです。そこは危険ではなかったから、危険区域には入れられていなかったのでしょうか。

核実験はその後も 5 月まで続けられ、米国は実戦用水爆を完成しました。これらの核実験で、実験の米国関係者 3000 人以上が被爆しました。4 月からは、日本各地に放射能を持った雨が降り注ぎ、厚生省は「野菜は良く洗ってから食べるように」と通達を出しました。大阪の降雨からは、ビキニ水爆と同じ成分の放射性原子が検出されました。そして、この年、世界的な気象異常が発生したのでした。

日本政府も世論に押され、米側に 25 億円を損害賠償として請求しましたが、米国は「核実験と、マグロの放射能は関係がない。米国は損害賠償には応じないが、慰謝料として 5400 万円支払う用意がある」と回答しました。

米国が「慰謝料」を払うことにしたのは、駐日大使が「福竜丸船員の被害の程度ととらえ方の日米の差は、生活習慣の違いによる。米国は、可能な限り迅速な和解をすべきで、お金を渡して忘れてしまうのがよい」との報告を受けてのものでした。

【問題】

日本政府はこの米国提案を受け入れたと思いますか。

予想

ア 受け入れた イ 拒否した ウ 無視した

■放射能調査船

「核実験と魚の放射能汚染の因果関係を認めない米国提案」を日本は受け入れることができませんでした。そこで、日本は調査船を出して放射能汚染の実態を調べることにしました。米国は、この動きに強く反発し、アイゼンハワーは「放射能汚染の事実はおおげさに伝えられている」、原子力委員会ストロース委員長は「海の広い範囲で魚が汚染されたというのは事実ではない。日本の漁船の魚だけが放射能魚だったということだ。米側の調査では、汚染された魚が太平洋から水揚げされたことは、一度もない。海水の放射能はロスの水道水程度である」と述べました。

調査船の調査で、広範囲にわたる高度の放射線汚染(雨 1.7 万 cpm, 表面海水 5500cpm, プランクトン 1.8 万 cpm)と、放射性物質が生物濃縮により大型魚に高濃度に蓄積されていることが明らかになりました。

この報告に対し、米国も調査船を派遣しましたが、事実は同じでした。そこで米国は、「慰謝料」を 100 万ドルに増加して、日本に受け入れを求めました。

【問題】

国連信託統治領理事会は、被爆したマーシャル諸島住民の請願書を受理し、審議に入りました。いくつか決議案が提出されましたが、採択された決議案の内容は、どんなものだったのでしょうか。

予想

ア 信託統治権を停止

イ 信託統治地域での核実験を禁止
ウ 米国は損害賠償すべし
エ 米国は被害者に同情すべし
オ そのほか

<http://www.ss-s.co.jp/s29-3/354.html>

五月

354

俊鵬丸放射能の海に入る

5・31朝日(東京)夕刊

【假想丸 廣田記者三十一日宛】竹芝海軍出陣三十一日、
海水から放射能が検出され、フランク・トシもついに三カワウ
トを愛護、假想丸の船体は、高射砲の海に墜入した。今度の

「『手紙の書き方』の書は、いかに『手紙』が、人々の生活に、重要な役割を占めていたかがよくわかる。『手紙の書き方』の書は、いかに『手紙』が、人々の生活に、重要な役割を占めていたかがよくわかる。」

船体もついに汚染

調査器具 使用不能を心配

[illegible][illegible]

海水浴
夢ではない

海水浴の恐怖

日本へ流れれば
おろ、この島境が相模流に接する
ところの山奥にある。
水堀実験が終つてから約三週間
たつてゐるが、磯が、海面に
く飛び散つた炭、水堀のなけら
である放射性物質の極めて細か

定点觀測復活

運輸委で決断



警備府連合委員会は三十一日、本
平井上の文芸新聞記者の報告によ
りて決断し、前記を以て「演説に
定例演説の完全な復原を遂行す
る具体的方策をなすこと」を議
議した。

WUTHERER, D. S. 1970
45.

海水浴は心配なし

東大農学部佐江寛行教授の講義の要録も日本古来の海水とラシクトンとが密着があるのではないかと調べているが、今のところ出ていない。海水は塩素が濃く、ここである津川県の東大田郡津波崎所と東京湾のものだけ調べたのが、精糖と飼料するなら塩素は濃く残っている大粒はまでなく、微細がある。濃度は川とちが

■同情的注意

ソ連代表は「核実験は信託統治の目的と原則に違反する」として「即時実験中止の決議案」を、インド代表は「米国は水爆実験を行う権利は持っていない」と「実験中止を要求する決議案」をそれぞれ提出しました。米国は「〈信託統治領で核実験を行ってはならない〉とする規定は、一切存在しない。したがって、核実験には違法性はない。信託統治の目的は、国際平和と安全への寄与だから、核実験はその目的に合致している」と述べました。

ソ連とインドの決議案は否決され、英仏ベルギーによる合同決議案が、ソ連、インド、シリアは反対しましたが採択されました。それは「水爆実験の被爆者に遺憾の意を表する。被爆者に対する医療看護措置と住民の苦情に同情的注意を払うことを米国に求める」というものでした。

米国大使は、この決議に対して「住民に対し、できる限りの介護を保証する。米国は、これまでもあるゆる手段を講じてきた。核実験は終了したし、永続的健康被害はないと聞いている。移動された住民は、元の居住地に戻って暮らしを再建するということは、理にかなったことである」と述べました。こうして、米国は「核実験続行の国際的な了承」を得たわけです。

しかし、世論は、それを納得していませんでした。ひとりの主婦の呼びかけから始まったという「原爆水爆禁止署名」は、年末までに 2000 万人の署名を集めました。国際赤十字社連盟理事会やユネスコ執行委員会も核実験反対を決議しました。

【問題】

米国大使が言ったとおり、ビキニでの核実験が終了したあと、米国は、避難させた住民を元の島に帰したと思いますか。

予想

- ア すぐに帰した
- イ 数ヶ月たってから帰した
- ウ 帰さなかった



「ラッキードラゴン」
ベン・シャーン作

紙・テンペラ 1960 年制作
213.4×122.0cm

福島県立美術館蔵

■ 帰島の理由

核実験終了の二週間後、米原子力委員会は、5月末に「ウトリック住民が浴びた放射線量は14ラドで後遺的影響は考えられない。もうウトリックの土壌には高レベル放射性物質はない」として、住民157人を帰島させました。

しかし、米国はウトリックの放射能除去を行ったわけではなく、放射性物質は、動植物に吸収されていました。そこで、原子力委員会は「島のものを食べたり飲んだりしてはいけない」として、飲料水と携帯食料を住民に与えました。そして、それらがなくなると、住民は島の動植物を食べ、汚染された天水ためにたまった水を飲み、被曝していきました。

原子力委員会は、帰された住民が被曝することを知っていました。後に公開された文書には、「ウトリックに住民が住むことは、どれぐらいの放射性物質を摂取するかを人々の尿から知ることができる。汚染された環境に住むことによって、人間への影響データを得られるのである。この種のデータは、今までにない。これらの人々は文明人ではないが、ネズミよりは我々に近い。いずれ帰島することになるロンゲラップ住民との比較もできる」と記されていたのでした。

【問題】

9月23日、闘病生活を続けていた福竜丸乗組員の久保山愛吉さんが「核兵器による被害者は、私を最後にして欲しい」と言い残して、亡くなりました。葬儀には、政府閣僚とともに米国大使も訪れて「米国民を代表して遺憾の意を表します。個人的には、心

からお悔やみ申し上げる」と香典 100 万を包みました。

核実験による死者が初めて出て、米国はその後どうしたと思いますか。

予想

ア 日本に対する「慰謝料」を増額

イ 核実験停止を発表

ウ そのほか

DVD VIDEO

第五福竜丸

原爆許すまじ！国民の怒り、そして
祈りを込めて全世界に訴える衝撃の問題作！

ヒロシマ、ナガサキ、そして
ビキニ
一九五四年三月一日未明、
太平洋ビキニ環礁沖で操
業中のマグロ漁船、第五福
竜丸の船長・久保山愛
吉は、二十三人は、突然の
閃光に驚き、巨大なキノコ
雲を目撃する。降り注ぐ白
い灰、原因不明の熱風、焼
津に帰港した彼らは、自分
たちが米軍の水爆実験に
巻き込まれたことを知る。
それは、死の灰と共に日
本中を震盪させた、第五
福竜丸事件の幕開けだった。

【キャスト】 久保山愛吉＝宇野重吉 久保山しず＝乙羽信子 知事＝小沢栄太郎 水手博士＝千田是也
船医＝生田幸三 水手＝水田 浩 渡辺博士＝三島雅夫 東＝船橋英一 松本克平 漁船長＝船橋義男
無名博士＝浜田賢彦 大宮医師＝水戸黄門 船員博士＝清水将夫 船医＝船橋英男
【スタッフ】 監督＝新藤兼人 脚本＝八木保太郎、新藤兼人 製作＝藤田友雄、石山一丸、山田典吉、渡辺隆雄
撮影＝船橋英吉 音楽＝林 光 美術＝丸茂 才 編集＝丸山誠雄 監製＝船橋正一 編集＝船橋光雄

AEIR-10036 本編70min B/W MPEG-2 複製不能 レンタル専用 DVD VIDEO
2.35:1 日本語字幕 日本語 1.日本語字幕 2.英語字幕
© 1999 Kinema Eiga Kyokai Co., Ltd. Package Design © 2000 Ammic Asia Entertainment, Inc. Made in Japan 日本映画著作権協会（VIA）登録（V-00180617）
DOLBY DIGITAL "5.1" Surround Sound System
発売：アスミック Ammic

DVD VIDEO

第五福竜丸

1959年作品

監督・脚本：新藤兼人

宇野重吉 乙羽信子 小沢栄太郎 千田是也

Ammic AEIR-10036 レンタル専用

■核実験で死んだのではない

米国は、久保山の死因が「輸血による肝臓障害であり、死の灰をあびたことによるものでは断じてない」と主張して譲りませんでした。原子力委員会の委員は「もし、米国医師が治療していたのなら、久保山は死ななかった。現に、マーシャル諸島住民は誰も死んでいないではないか」と述べました。たしかに、ミクロネシアの被爆住民で死亡したものは、当時まだいませんでしたが、被爆妊婦は、流産や死産、奇形児出産を経験し、子どもたちには甲状腺への放射性ヨウ素が集まることにより、成長停滞が見られていたのです。



そして、ソ連は核軍事演習を行い、米国も「ネバダで核実験を再開する」と発表しました。米国原子力委員会は「ソ連核実験による死の灰の拡散は微量である」としていましたが、チャーチルが「(ソ連の) 不法な核実験は、大気に今後 5000 年にわたって損害を与える可能性がある」と述べて、ヨーロッパではパニックになりました。

【問題】

ビキニ水爆実験の一週間後、日米は相互防衛援助協定を締結し、日本は再軍備することとなり、6 月には自衛隊ができました。

非戦憲法制定当時、「一切の軍備と国の交戦権を認めない結果、自衛権の発動としての戦争も、また交戦権も放棄したものであります」としていた吉田首相は、どのような理由で「自衛隊を違憲ではない」としたのでしょうか。

予想

- ア 「自衛隊は防衛軍であり、憲法は防衛まで禁じていない」
- イ 「自衛隊の能力は戦力にはほど遠い」
- ウ 「安保条約により、日本独自の行動は限られる」
- エ そのほか

■自衛隊は戦力ではない

平和憲法を制定した吉田首相は、再軍備に反対してきました。米国の「日本再軍備」の方針転換により、朝鮮戦争の時、マッカーサーは、警察予備隊を作りましたが、このときも吉田首相は、警察予備隊の幹部には旧軍関係者ではなく、警察関係者を登用しました。

しかし、講和条約のあと、警察予備隊は保安隊と改称され、吉田首相は「新国軍の土台である」としました。実際、保安隊には、戦犯を含めた多くの旧軍関係者が参加していました。「保安隊は違憲」との批判に対し、吉田内閣は、「憲法9条は〈戦力〉の保持は

禁じているが、〈戦力〉とは近代戦争遂行に役立つ程度の装備、編成をそなえたものをいい、〈戦力〉にいたらざる程度の実力を保有することは違憲ではない」としたのです。

しかし、自衛隊法により陸海空の三軍が



できてからは、もはや「戦力なき軍隊」との主張も通用しなくなり、吉田内閣は、「憲法が保持を禁止しているのは侵略戦争を行いうる戦力であり、これに該当せずに自衛の範囲にとどまる実力の保持と行使は、独立した国家である以上当然に具有し、憲法も決して否定していない自衛権の内容として許され、自衛隊はその範囲内にとどまるから合憲である」としたのです。

そして、今や自衛隊は、世界第二位の軍事予算を持ち、海外派兵も行っています。そこで政府ももはや「違憲ではない」とは言わず、「実態に合わせて憲法改正を」と言っているわけです。

【問題】

米国は「日本で行われているマグロの放射線量調査は非科学的であり、中止すべき」と、日本に勧告しました。

では、日本政府はどうしたと思いますか。

予想

- ア 勧告を受け入れた
- イ 拒否した
- ウ そのほか

■日米決着

日米補償交渉は進んでいませんでしたが、双方とも「補償が未解決のままだと共産主義者の宣伝に利用される」という点では一致していました。

米国は、久保山の死でよりいっそう激しくなった反核と反米の感情を和らげるため、日本に原子力発電所関連情報を与えて「平和利用」を強調し、「日本人の放射能に対する恐怖感を取り除き、科学的態度を教えるため」として、「放射性物質の影響と利用に関する日米会議」を日本で開催しました。

原子炉技術の供与に対し、日本学術会議は「米国の厚意に感謝する」と声明を出し、日本は原子力発電へと大きく前進しました。また、日米会議では、もっぱら米国側の「日本基準の 100 倍量の放射線を飲食しても全く心配がない」などとする主張だけを報道させました。

12 月末、厚生省は「現在の放射線レベルは微量で、毎日食べても心配ない。特に食用の部分は安全」として年末で「魚の放射線レベル検査」を中止することを決定しました。これに対して、科学者や都道府県から「依然高い放射線量が検出されている」との発表がありましたが、厚生省は「放射線が出ているラジウム温泉近くの住民に遺伝的影響が起きたという話は知らない」として、検査を中止しました。

そして、米側は「法律上の問題とは関係なく、これですべての請求に対する解決とする」として、慰謝料 200 万ドルに引き上げ、日本政府もそれを了承しました。この 200 万ドルは米政府の機密費から支出されたもので、米議会は一切関与していないものでした。

200 万ドル=7.2 億円は，その 8 割以上がマグロ業者の損害補填に使われ，福竜丸乗組員は平均して 200 万円を与えられました。

【問題】

福竜丸問題を解決した米国は，1955 年 2 月，ネバダで核実験を再開し，5 月までに 14 回の実験を行いました。これらの核実験では，死の灰による放射能汚染は起こらなかったのでしょうか。

予想

- ア 被害はなかった
- イ インディアン保留地やユタ州だけ被害にあった
- ウ もっと広範囲が被害にあった
- エ そのほか



ネバダ核実験

■放射性降下物は危険ではない

核実験再開に先立ち、米原子力委員会は米国民に「核実験の影響」という冊子を配布し、それには「あなたがたの最良の行動は、放射性落下物を恐れたりも心配したりしないことです」と書かれていました。

また原子力委員会は「ビキニ水爆実験で広範囲が汚染されたこと」を初めて認めましたが、「放射性降下物には、着替えや体を洗うことで効果的に対処できる」としました。そして「核実験の危険は、工場の爆発、高速道路を運ばれるガソリンの爆発と同じである。危険の度合いは、国家と自由世界の安全保障のための核実験計画の重要性とのバランスである。これまでのデータに寄れば、実験場以外の地域で、残留放射能の量が危険なまでになっているところはない」としていました。

ネバダでの核実験は、死の灰を全米に降らせました。原子力委員会は「風下の人、は、〈放射性降下物と共に暮らす〉ということを経験することである」と述べました。ラスベガスに死の灰が降ったときは、原子力委員会は「健康には何ら問題はない」としました。

降下物がユタ州のセントジョージ市に集中したとき、市は市民の避難を検討しましたが、原子力委員会は「住民の健康安全が問題なのではなく、避難させることにより起こる〈降下物に対する世論対策〉が問題なのだ」として避難させず、「降下物は安全」とするパンフレットを市民に配布しました。

コロラド大学教授が「降下物が住民に多大な被害を与えている」と告発したときも、AEC ストローズ委員長は「いわれのない告発だ。ネバダ実験場からの降下物は、誰にも被害を与えていない。私を知る唯一の傷害は、1952 年と 53 年に実験に参加した兵士数

人が、目に障害を受けたことだけだ」と述べました。

実験は、ネバダだけにはとどまりませんでした。海軍は、5 月に、サンディエゴ沖 800 キロの海中で核実験を行いました。これは、実験場以外で行われた最初の核実験でした。実験は、米国市民に魚の放射能パニックを引き起こし、太平洋で捕れた魚が破棄処分になりました。

さらに核実験は拡大します。ネバダ核実験再開と同時に、英国のチャーチルは「水爆の恐怖が安全を生む」として、水爆の開発宣言を行い、フランスも原水爆開発を宣言しました。米国では、核攻撃を想定した民間防衛演習が全土で行われました。

【問題】

大国の止まらない核武装に対して、湯川秀樹ら世界の著名人による〈核と戦争の廃絶を訴える〉「ラッセル=アインシュタイン宣言」が出され、広島では、第一回原水禁世界大会が開催されました。また、ジュネーブでは第一回原子力平和利用国際会議が開かれ、国連参加がまだ認められていなかった日本も参加して、原爆やビキニ被害についての論文を提出しました。国連は、放射能の危険性に関する科学調査委員会の設置を決定しました。

では、大国の核開発や核実験は、その後、減ったでしょうか。

予想

- ア 停止された
- イ 激減した
- ウ 変わらなかった
- エ そのほか

■ラッセル=アインシュタイン宣言

ラッセル=アインシュタイン宣言は「およそ将来の世界戦争においては必ず核兵器が使用されるであろうし、そしてそのような兵器が人類の存続を脅かしているという事実から見て、私たちは世界の諸政府に、彼らの目的が世界戦争によっては促進されないことを自覚し、このことを公然と認めるよう勧告する。従ってまた、私たちは彼らに、彼らの間のあらゆる紛争問題の解決のための平和的な手段を見出すよう勧告する」というもので、イレース・キュリー博士は「米国の科学者は〈知らなかった〉とか〈意外だった〉とかの言い訳はできません。〈私の知っていること〉は、彼らもやはり知っているのです」と述べました。

日本が参加を認められた原子力平和利用国際会議に、日本は原爆やビキニ被害について 30 以上の論文を提出しましたが、水爆関係の二つの論文は却下され、残りの論文も口頭発表を認められませんでした。ただ、この会議では「ソ連の原爆開発が独自技術であった」ことが明確となり、ローゼンバーグ事件が冤罪であった可能性が高まりました。

しかし、核開発は止まりませんでした。ソ連は水爆実験を続けて、ICBM 用の水爆を米国よりも先に完成しました。米国も、マールシャル諸島での核実験を再開すると発表しました。

日本も原子炉開発へ進みます。日米原子力協定を締結し、濃縮ウランが米国からもたらされることが決まり、さらに人形峠では大規模ウラン鉱床が発見されました。年末には、原子力基本法が成立し、日本原子力委員会が発足しました。そして、東海村で原子力発電所の建設が始まりました。

【問題】

米国のミクロネシアでの核実験再開宣言に対し、衆参両院は「原水爆禁止要望決議」を全会一致で可決し、政府は「核実験の際は、

①事前通告、②予防措置、③損害の補償」を申し入れました。

国連信託統治理事会でも核実験再開が問題となり、インドとソ連が反対しました。そして、マーシャル諸島代表が再び国連に核実験停止と補償の請願を行いました。

では、米国はミクロネシアでの核実験を取りやめたと思いますか。

予想

ア 中止した

イ 延期した

ウ 場所をミクロネシア以外に変更した

エ そのまま続行した



原子力科学者緊急委員会

アインシュタインは、核兵器の危険性をとても危惧(きぐ)していた。1946年、各国が保有している核エネルギーの管理をよびかけ、その平和的な使用法について検討するため、7人の科学者たちとともに

原子力科学者緊急委員会を結成した。写真の前列中央がアインシュタイン。

■戦時補償

米国は日本政府に「事前通告と被害の予防措置は了承したが、損害の補償は法的に困難」と回答し、日本政府も「実験は遺憾だが、現在の国際情勢からみてやむを得ない。日本としては、米国が危険防止と損害補償に万全の措置をとるよう希望する」と、それを了承しました。

信託統治理事会では、「核実験は住民の生命を脅かしており、国連憲章違反」と訴えられましたが、米国は「米国には、自由世界すべての人々への侵略を防ぎ、平和を維持するために責任がある。よって核実験は完全に必要」と押し切りました。ミクロネシア代表として国連に請願した、マーシャル諸島の高校校長は、信託当地領政府に解雇されました。

ただ、この信託統治理事会で、「核実験による被害補償」ではなくして、「米国に戦時補償問題解決のための日米交渉促進を要請する決議」が採択されました。

【問題】

米国は核実験のため、さらに危険区域拡大し、以前の10倍の広さとなりました。では、今度は前もって住民を避難させたでしょうか。

予想

- ア 危険区域内の全住民を避難させた
- イ 危険区域外の住民も避難させた
- ウ 住民の避難はなかった

■危険区域

危険区域が 10 倍に拡大されても、これまで通りロンゲラップ、ウトリックなどの島は危険区域から除外されていました。ウトリックには、住民が帰島していましたが、「危険区域外」ということで、避難は行われませんでした。そして、1956 年 5 月から 7 月まで 17 回の核実験が行われ、米国は実戦用水爆の開発に成功しました。

英国もギルバード諸島とオーストラリア北部で核実験を再開し、オーストラリアでの核実験では、多数のアボリジニと 29 の町が被爆しました。

【問題】

米国のミクロネシアでの核実験に対し、日本は再び放射能調査船を派遣しました。核実験終了前に帰港した調査船は「マグロの市場調査と付近海域の再調査が必要」と報告しました。

では、政府は、マグロなど魚や漁船の放射線量調査を始めたと思いますか。

予想

- ア 放射線量調査を始めた
- イ 核実験終了後に再度調査船を派遣した
- ウ 放射線量調査はしなかった

■政府の対応

前回派遣された調査船は、核実験の終了後に派遣されましたが、今回は、核実験のさなかに派遣されたため、危険区域には接近しないで調査を行いました。それでも高度の放射線が計測されたため「マグロの市場調査と付近海域の再調査が必要」と報告したのです。しかし、政府は「魚類の汚染は少ない、再調査の必要はない」として、放射線検査を行わず、汚染されたであろう魚を国民は食べたのです。

【問題】

1956年、米国は大統領選挙の年でした。ソ連が米国に核実験停止を呼びかけたことをアイゼンハワーが無視したことから、対立候補のステューブンソンは「核実験停止」を公約に大統領選に臨み、「核実験の是非」が争点となりました。

では、大統領選挙の結果はどうだったのでしょうか。

予想

- ア アイゼンハワーの圧勝
- イ アイゼンハワーの辛勝
- ウ ステューブンソンの勝利

■世論

スティーブンソンの核実験停止の主張は「①米国にはすでに世界のすべての都市を破壊できるだけの核兵器がある。②核実験停止協定違反の探知は容易。③核実験停止は核拡散を抑止する。④核実験は、死の灰からまだ生まれぬ子どもたちへの遺伝的影響を与える可能性がある」というものでした。しかし、世論調査では「米国は核実験をやめるべき」としたのは24%で、「核実験続行」が56%でした。

また、大統領選挙に合わせて戦争を起こすことで、米国を味方に引き入れよう(ユダヤ票が左右する)とした英国とフランスは、スエズ運河奪取のためにイスラエルと共同で、スエズに侵攻し、第二次中東戦争を引き起こしました。

反共政策を進めるアイゼンハワーは、アラブ諸国も西側陣営に組み込み、さらに、ハンガリー動乱へのソ連の介入を回避させようとしていました。しかし、中東戦争で、世界の耳目はスエズに集まり、ソ連はハンガリーへの軍事介入を果たしました。アイゼンハワーは、英・仏・イスラエルへの協力を一切拒否したのです。そして、ソ連は「核爆弾を使用する」と警告して、英仏イスラエル軍を撤退させました。

こうしてユダヤ票を失ったのにも関わらず、アイゼンハワーは、圧倒的な勝利で再選されました。

この年は、国際原子力機関=IAEAが「全世界の平和、保健および繁栄に対する原子力の貢献を促進し、増大するよう努力すること。ならびに、機関自身があたえる援助が軍事目的を助長するような方法で利用されないようにすること」を目的に設立されました。つまり「原子力発電所の輸出」と「核拡散防止」が始まった

わけです。

【問題】

しかし，大統領選挙で核実験が争点となったことは，米国民に核実験に対する関心を高めることになりました。1957 年 1 月に，英国がクリスマス島での水爆実験の予定を発表すると，アイゼンハワーは，再選後すぐに国連に「核実験停止案」を提出しました。

では，これによって，核実験は停止されたと思いますか。

予想

- ア 停止された
- イ しばらく凍結された
- ウ 停止されなかった
- エ そのほか



1956 -
Enewetak

■米英関係修復

英国の核実験に対し、岸政権は「実験反対と中止の要請」を表明しました。ハワイ州議会も「反対決議」を可決しました。英国は、日本に「世界平和維持のため、核実験は英国政府の義務である」と回答し、岸首相は「気持ちはわかるが、手法としては賛成できない」とコメントし、英首相に「日本国民は中止を心から願う」という書簡を渡しました。英首相は「世界の平和は米英の核武装に依存している。今度の実験で日本に危険をもたらすことはない」と回答しました。

米国の核実験停止提案は、英国との意見調整なしに、米国が単独で提出したものでした。しかし、米国には、核実験を中止するつもりはなかったのです。米国は、1 月末にはネバダでの核実験再開の予定を発表しました。そうして、米国は英国と関係修復を果たし、両国首脳は「核実験は、死の灰による危険を最小にしつつ継続する」と共同声明しました。

結局、「核実験停止提案」は、選挙後の国内をまとめるために行われただけだったのです。

【問題】

米国は、大統領選挙で、ようやく、ミクロネシア住民への補償も提案しました。それは、核実験のた強制移住させられたビキニとエニウエトク住民を対象としたものでした。その内容はビキニの場合、「米国政府がビキニ環礁の全面使用権を有する。その見返りとして、ビキニ住民には、キリ島の全面使用権と 2.5 万ドルを与える」というものでした。

では、ビキニ住民はこの協定に応じたと思いますか。

予想

ア 応じた

イ 回答を留保

ウ 拒否した



Test: Mohawk Time: 18:06 2 July 1956 (GMT)

6:06 3 July 1956 (local)

Location: Eberiru (Ruby) Island, Enewetak Atoll

Test Height and Type: 300 Ft tower shot

Yield: 360 kt

■故郷の島へ帰して欲しい

協定には「この協定は強制ではなく任意である」とありました。ビキニ住民は「我々の願いはビキニに帰ることである」として、この協定を拒否しました。しかし、エニウエトク住民は、同様の協定に署名しました。

1957年1月の日本には、ソ連の11月の核実験による放射性雨(150cpm/l)が降り注ぎました。さらにソ連は、シベリアでの核実験を再開したため、死の灰は雪とともに日本列島に降りつもりました。政府はソ連に核実験中止要請をしましたが、ソ連の回答は「米英が核実験停止を受諾するなら、ソ連には、いつでも実験を中止する用意がある。現状ではソ連の安全のために実験継続しかない」でした。そして実験は続けられ、日本列島各地に放射性雨が降り注ぎ、高知では15万cpmもの値を記録しました。

【問題】

米英ソの核実験に対して、英国原子科学協会は「低レベルの放射線でもガンを引き起こすおそれがある。クリスマス島での実験では、1000人が死ぬおそれがある」と発表しました。それを聞いた63才の英国人は、抗議のためクリスマス島に向けて出発しました。シュバイツァーは放送で「核実験禁止」を呼びかけました。

では米国の世論調査で「他国が核実験を停止したら、米国も停止すべきか」の問いに「賛成」とした人の割合はどれぐらいあったと思いますか。

予想 ア 大多数 イ 半分ぐらい ウ 少数

■世界市民の反対

世論調査の結果は「賛成」が 63%、「反対」が 28%でした。ポーリングら科学者は「核実験停止の国際協定を求める請願書」を各国首脳に提出しました。こうした、市民の反対は世界規模のものとなり、『ニューズウィーク』誌は、「かつてない激しい反対運動が起こっている」と報じました。

日本政府は、米国にも核実験停止を要請しましたが、米国は「国際的監視機構がない現状では、実験を中止できない」と回答したため、政府は「被爆回避のための漁業補償 1 億円」を米国に要求しました。

しかし、核保有国は実験を続行しました。5 月、英国は実験場をモールデン島に移動して、水爆実験を行い、三番目の水爆保有国となりました。同月、米国も、ネバダで核実験を再開しました。気象庁は「今年の梅雨には放射能がある」と警告しました。

つづく

もう時間がな—い。



ネバダ

■核問題

核実験は止められるのでしょうか。核廃絶は可能なのでしょうか。私たちは、戦争を止めることもできないでいます。しかし、確実に世界は、明るい未来へと進んでいます。そのためにも、歴史から学ばなければなりません。

先日、天皇の誕生日メッセージがあり、その中でサイパン訪問について触れていました。国内向けのメッセージであるとしても、ミクロネシアの住民被害についてほとんど触れていないことは残念ですが、「歴史から学ぶこと」を強調しているところには、好感が持てました。

勤務校は、相変わらず閉校業務でゴタゴタしています。

丸山秀一 kasetsu.maruyama@nifty.com

■天皇誕生日記者会見より

先の大戦では非常に多くの日本人が亡くなりました。全体の戦没者310万人の中で、外地で亡くなった人は240万人に達しています。戦後60年にあたって私どもは、このように大勢の人が亡くなった外地での慰霊を考え、多くの人々の協力を得て、米国の自治領である北マリアナ諸島のサイパン島を訪問しました。そこには、この地域で亡くなった戦没者のために国が建てた、中部太平洋戦没者の碑があります。ドイツ領であったサイパン島は第一次世界大戦後、国際連盟により日本の委任統治領となり、多くの日本人が移住し、砂糖産業や農業、漁業に携わっていました。昭和19年6月15日、米軍がサイパン島へ上陸してきた時には、日本軍はすでに制海権、制空権を失っており、大勢の在留邦人は

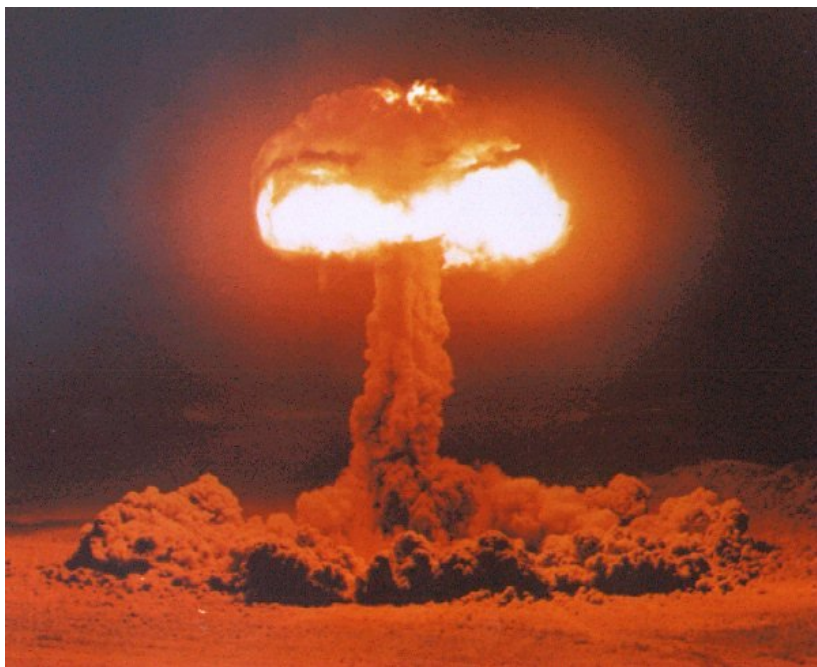
引き揚げられない状態になっていました。このような状況下で戦闘が行われたため、7月7日に日本軍が玉砕するまでに、陸海軍の約4万3000人と、在留邦人の1万2000人の命が失われました。軍人を始め、当時、島に在住していた人々の苦しみや島で家族を亡くした人々の悲しみはいかばかりであったかと、計り知れないものがあります。この戦闘では米軍にも3500人近い戦死者があり、また900人を超えるサイパン島民が戦闘の犠牲となりました。また、この戦闘では朝鮮半島出身の人々も命を落としています。

この度の訪問においては、それぞれの慰霊碑にお参りし、多くの人々が身を投じたスーサイド・クリフとバンザイ・クリフを訪れ、先の大戦において命を落とした人々を追悼し、遺族の悲しみに思いを致しました。61年前（ぜん）の厳しい戦争のことを思い、心の重い旅でした。ただ、高齢のサイパン島民には、かつて日本の移住者が島民のために尽くしたことを今も大切に思っている人がいることはうれしいことでした。私どもが島民から温かく迎えられた陰には、かつての移住者の努力があったことと思われます。この度のサイパン島訪問に携わった日本側の関係者を始め、米国側並びに北マリアナ諸島側の関係者に深く感謝しています。

日本は昭和の初めから昭和20年の終戦まで、ほとんど平和な時がありませんでした。この過去の歴史をその後の時代とともに正しく理解しようと努めることは、日本人自身にとって、また、日本人が世界の人々と交わっていくうえにも、極めて大切なことと思います。戦後60年にあたって過去の様々な事実が取り上げられ、人々に知られるようになりました。今後とも多くの人々の努力により、過去の事実についての知識が正しく継承され、将来

に生かされることを願っています。

(2005 年 12 月 23 日 読売新聞)



Test: Hood

Time: 11:40.00.4 5 July 1957 (GMT)

Location: NTS, Area 9a

Test Height and Type: 1500 Foot Balloon

Yield: 74 kt

■典拠文献

- ・ グローバルヒバクシャ研究会『隠されたヒバクシャ 検証=裁きなきビキニ水爆被災』凱風社, 2005
- ・ 豊崎博光『マーシャル諸島 核の世紀』日本図書センター, 2005 上下巻で 1000 ページ以上の本
- ・ 島田興生『還らざる楽園 ビキニ被曝 40 年 核に蝕まれて』小学館, 1994
- ・ 第五福竜丸平和協会『写真でたどる第五福竜丸』第五福竜丸平和協会, 2004
- ・ 川崎昭一郎『第五福竜丸』岩波ブックレット, 2004
- ・ 安斎育郎ほか『ヒバクの島 マーシャルの証言』かもがわ出版, 2004
- ・ レオン=クルチコフスキー 中元伸幸訳『エセルとジュリアス』未来社, 1985, ローゼンバーグ夫妻処刑前の 6 時間を戯曲化したもの。
- ・ アンドリュウ=たリー, 小鷹信光ほか訳『FBI』早川文庫, 1977, ローゼンバーグ事件を誇らしげに書いた「サンタフェの地図」がある。
- ・ F=X=ブッシュ, 庄司浅水訳「ローゼンバーグ事件」『世界ノンフィクション全集 15』筑摩書房, 1961
- ・ ハワード=ジン, 猿谷要監修『民衆のアメリカ史』TBS ブリタニカ, 1993
- ・ 武谷三男『原水爆実験』岩波新書, 1957
- ・ 武谷三男編『安全性の考え方』岩波新書, 1967
- ・ 武谷三男『死の灰』岩波新書, 1951
- ・ ラルフ=E=ラップ, 八木勇訳『福竜丸』みすず書房, 1958
- ・ 矢内原忠雄『南洋群島の研究』岩波書店, 1938
ほとんどの本の「底本」。
- ・ ロナルド=ウェルチ, 斉藤数衛訳『暗黒の海に挑む〈マゼラン〉』学習研究社, 1971, 原著は 1955

- ・ 斉藤達雄『ミクロネシア』ずずさわ書店, 1975
- ・ ダンカン＝カースルレイ, 生田滋訳『図説 探検の世界史 1 大航海時代』集英社, 1975, 原著は1971発行。
- ・ 『日本植民地史 3』別冊一億人の昭和史, 毎日新聞社, 1978
- ・ 矢野暢『日本の南洋史観』中公新書, 1979
- ・ 桜井均『ミクロネシア・リポート 非核宣言の島々から』日本放送出版協会, 1981
- ・ 小林泉『ミクロネシアの小さな国々』中公新書, 1982
- ・ 家長三郎『戦争責任』岩波書店, 1985
- ・ 原康史『第一次世界大戦と日本 激録・日本大戦争 25』東京スポーツ新聞社, 1987
- ・ 本多勝一『マゼランが来た』朝日新聞社, 1989
- ・ マーク＝R＝ピーティ「日本植民地支配下のミクロネシア」『近代日本と植民地 1 植民地帝国日本』岩波書店, 1992
- ・ 小林泉『アメリカ極秘文書と信託統治の終焉 ソロモン報告・ミクロネシアの独立』東信堂, 1994
- ・ 平間洋一『第一次世界大戦と日本海軍 外交と軍事の接続』慶應義塾大学出版会, 1998
- ・ 矢崎幸生『ミクロネシア信託統治の研究』御茶ノ水書房, 1999
- ・ 中島洋『サイパン・グアム 光と影の博物誌』現代書館, 2003
- ・ 板倉聖宣ほか『理科教育史資料』東京法令出版, 1986
- ・ 成瀬治ほか監修『山川 世界史総合図録』山川出版社, 1994
- ・ 『プロムナード世界史』浜島書店, 1999
- ・ 「世界大百科事典 第二版 CD-ROM」平凡社
- ・ 「岩波 日本史事典 CD-ROM」システムソフト
- ・ 「スーパーニッポニカ 2003DVD」小学館

- 「エンカルタ総合百科 2006DVD」 マイクロソフト
- 中野文庫 植民地法令
<http://www.geocities.jp/nakanolib/etc/colony/nanyo.htm>
- 南洋庁関連写真
http://www.bunsei.co.jp/NRoss/6_southseaagency.htm
- 岩木みどり「南洋群島における植民地時代の日本語教育年表」
<http://www.age.ne.jp/x/oswcjlrc/longzemi/micronesiatimeline.htm>
- 南洋群島 <http://www.kaho.biz/main/nanyo.html>
- 平高史也「南洋群島における日本語教育」 慶応大学講義
http://gc.sfc.keio.ac.jp/class/2004_14621/slides/08/3.html
- 国立公文書館 <http://www.archives.go.jp/>
- グアム政府観光局
<http://www.i-loveguam.com/main/top.html>
- パラオ アンガウル州立自然公園
<http://www.ows-npo.org/angaur/index.html>
- パラオ政府観光局
<http://www.palau.or.jp/index.html>
- マリアナ政府観光局
<http://japan.mymarianas.com/japanese/index.html>
- マーシャル諸島政府観光局
<http://www.visitmarshallislands.com/main.htm>
- ミクロネシア連邦政府観光局
http://www.visit-micronesia.fm/index_j.htm
- ミクロネシア はるかなる歩みの歳月
http://www.yashinomi.to/micsem_j/photos.htm
- Flags Of The World

<http://flagspot.net/flags/index.html> 旗の図版はここから

- <http://www.guam-online.com>
- <http://www.saipan-press.com>
- 東京大学東洋文化研究所
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/documents/texts/pw/19110713.T1J.html>
- 公学校に見る全員教育
<http://www.bl.mmtr.or.jp/~idu230/his/his/bunken/idumi/syuron/2-2.htm>
- 読売新聞 1921.3.17(大正 10) ヤップ海電問題
http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=00104499&TYPE=HTML_FILE&POS=1&TOP_METAID=00104499
- 宮内庁「天皇陛下のお言葉」
<http://www.kunaicho.go.jp/gaikoku/gaikoku-h17saipan.html>
- Bikini Atoll <http://www.bikiniatoll.com/home.html>
- The Nuclear Weapon Archive
<http://nuclearweaponarchive.org/Home.html>
- Jealous Gay
http://homepage.mac.com/ehara_gen/jealous_gay/index.html
- Rosenbergtrial.org www.rosenbergtrial.org/
-

■参考文献

- 島田啓三『冒険ダン吉』少年倶楽部文庫，講談社，1976，もともとは1933～39 まで『少年倶楽部』に連鎖されていたもの。
- 船坂弘『秘話パラオ戦記』光人社 NF 文庫，2000，もとは『玉砕戦の孤島に大義はなかった』1977

- ・ 板倉聖宣ほか『日本の戦争の歴史』 仮説社, 1989
- ・ 牟田清『太平洋諸島ガイド 南の島の昔と今』 古今書院, 1991
- ・ 大野俊『観光コースでないグアム・サイパン』 高文研, 2001
- ・ 三枝篤夫『マーシャルの奇跡 マーシャルの大旱魃を救った日本人たち』
蝸牛新社, 2002
- ・ 西牟田晴『僕の見た大日本帝国』 情報センター, 2005
- ・ 小此木真三郎『フレームアップ』 岩波新書, 1983
- ・ 堀江則雄『もう一つのワシントン報道』 未来社, 1985
- ・ 第五福竜丸展示館 <http://d5f.org/>
- ・ DVD『アトミック・カフェ』 竹書房
- ・ DVD『第五福竜丸』 角川エンターティメント
- ・ DVD『ゴジラ』 東宝
- ・ DVD『ゴジラ 1984』 東宝
- ・ ビデオ『放射能 X』 ワーナー・ホーム・ビデオ
- ・ 原水禁 <http://www.gensuikin.org/>

